

今後の県立高校に関する地域検討会議（第3回）（中部地区）

意見交換の記録（要旨）

【花巻市、北上市、遠野市、西和賀町】

令和7年12月24日（水）

花巻市定住交流センターなはんプラザ

CMOZ ホール

■ 質問

上田 東一 花巻市長

- 黒沢尻工業高校に新設される半導体関連学科について、既存の学科のうちどの学科を閉じることで入れ替えるのか伺いたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- 現時点では県教委として想定しているのは、材料技術科を閉じて半導体関連学科とする予定である。

■ 意見交換

上田 東一 花巻市長

- 大迫高校については、今後の入学状況を見て、募集停止等の判断については柔軟に対応していただきたい。
- 中高一貫教育校の花巻市への開校については引き続き継続議論をお願いしたい。
- 花北青雲高校情報工学科の募集停止はやめていただきたい。同科の学びは黒沢尻工業高校の半導体学科とは異なり、情報工学科の募集を減らす必要はない。水沢工業高校と一関工業高校の統合が後期（令和13年度以降）に遅れている現状では、工業高校の学びを集約する緊急性はない。花北青雲高校の情報工学科は志望者も多く、企業評価も高い現状を考え、募集を減らす必要はない。

八重樫 義正 北上市副市長

- 北上管内は人手不足が深刻であり、特に工業系の人材育成に対する期待が高い。そういう点でも、黒沢尻工業高校への半導体関連学科の設置は地域の産業構造の観点から評価する。地域のインフラ整備を支える建設業などの工業系学科の充実にも努めていただきたい。
- 複数の自治体が集まる地区の中では、生徒に一定の選択肢を提供しつつ定員を決めるこの困難さは理解するが、高校へのアクセスの容易性を鑑みて、自治体ごとの進学者数の推移を考慮しながら進めてほしい。
- 少子化の中、全国的に私立高校への進学が増えている。公立高校は人事異動によって教育を支えるため、その魅力維持は大変な課題である。今後は公私のバランスを考える必要があるのではないか。

多田 一彦 遠野市長

- 前回の要望を反映して回答いただいたことに感謝申し上げる。遠野緑峰高校は、遠野市民や遠野市全体から非常に評価が高い学校である。活動収益の市への寄付や、台湾の研修先での高い評価といった実績もある。遠野緑峰高校は、生徒の個性を生かした教育を実践していることから、遠野高校と統合した場合も、遠野緑峰高校の個性や良いところを尊重し、それぞれの個性を伸ばすという学校の方向性をなんとか維持した形であってほしい。学校の運営、カリキュラム、学科についてもしっかり相談し、結論を出していただきたい。先ほどの説明にあった発展的な統合という方針を維持して取り組んでほしい。

内記 和彦 西和賀町長

- ・ 今回の計画修正案については特段の意見はないが、子どもたちの成長に向けた「充実した学び」を実現するため、今回の計画がより確かなものとなるよう、先生方を含む教育体制の充実にさらにお力添えをいただきたい。また、それに伴う教育環境についてもよろしくお願ひしたい。地元としては、ふるさと創生の鍵となる西和賀高校と、町が一体となって今後も取り組んでいく所存である。

新渕 伸彦 農事組合法人リアル 代表理事

- ・ 黒沢尻工業高校の学科改編からわずか1年後の令和10年度に花北青雲高校を募集停止することは拙速であり、新設学科の成否や定員割れの状況を見極めるためにも、募集停止の時期を後期計画へ先送りしていただきたい。
- ・ 計画が教育委員会の都合優先で進められている懸念があるため、現在定員が満たされている花北青雲高校に通う生徒や地域住民のニーズを十分に汲み取り、通学の利便性なども考慮すべきである。
- ・ 黒沢尻工業高校での企業連携と同様に、農業高校においても現場の生産者から学ぶ機会を設けるなど、遠野緑峰高校のように地域に根差した教育を推進し、公立高校全体の魅力を高める取組を期待する。

桶田 陽子 農事組合法人宮守川上流生産組合 代表理事組合長

- ・ 遠野緑峰高校の卒業生は、農産物の生産・加工（6次産業化）を担う地元の農業法人に就職し、「地元の資源を生かして地域を元気にしたい」という高い地域愛と意欲を持って活躍している。こうした素晴らしい卒業生を輩出している遠野緑峰高校の、地域愛が醸成されている良い面が失われないよう、説明にあった発展的な統合という方針を維持し、配慮をお願いしたい。
- ・ 農業を担う人材育成だけでなく、農業を取り巻く産業（食品加工、商品開発など）を担う人材育成のため、外部の企業・団体とも連携しながら、カリキュラムに配慮した指導を引き続きお願いしたい。
- ・ 現在、遠野緑峰高校が保有している倉庫、果樹園、畜舎などの農業関連施設や、農産物加工施設は立派なものであり、教育環境の維持のためにこれらの施設の維持管理に十分配慮してほしい。予算確保が難しい場合は、民間との連携も視野に入れてほしい。

阿部 真奈美 早池峰興業株式会社 役員

- ・ 修正案において校舎間の移動支援を検討していただいたことに感謝するが、両校舎間は距離があるため、授業時の移動だけでなく、部活動等における移動手段についても十分な配慮と保障をお願いしたい。
- ・ 遠野緑峰高校は、中学校時代に不登校や不安を抱えていた生徒が、少人数でのきめ細かな指導を求めて進学している側面があるため、統合後もそうした生徒たちが安心して通えるような支援体制を維持していただきたい。
- ・ 両校ともに施設の老朽化が進み、和式トイレが残るなどの課題があるため、統合を契機として生徒に選ばれる魅力ある学校となるよう、施設設備の改修や環境整備を検討していただきたい。

高橋 輝彦 株式会社星の丘チーズ

- ・ 再編計画に挙げられている5つの方針は、子どもたちの教育環境として必要なものであり、西和賀高校においてもこれらの方針に沿った教育環境の構築を期待する。
- ・ 現在は複数学級化しているが、今後も学校を持続させていくためには、行政や地域だけの力ではなく、県教委の力も借りながら三位一体で連携して取り組む必要がある。
- ・ 行政や地域が連携して計画を立てる段階から県教委と協議できるよう、専門に対処する窓口のような存在を設置していただきたい。

酒本 涼子 サロン・ド・愛

- ・ 長年、高校の存続に関わってきたが、近年、生徒自身が「本当に何をやりたいか、どこに行って何をしたいか」がわからない生徒が多いと感じている。
- ・ 授業料無償化や学校の魅力化といった「条件」は出てきているが、それは大人側の都合であり、生徒本人の内発的な進路選択の解決にはなっていないのではないか。
- ・ 西和賀高校が複数学級になったことを逆に危機感として受け止めている。これまでの議論は「学校のため、町のため、県のため、予算のため」という視点に偏っていたのではないか。高校再編や教育の在り方は、周辺の条件ではなく、生徒を主語にした視点で、生徒が本当に何をしたいのかを指導し、その思いを叶える場として考える必要がある。

峯村 諭 花巻市PTA連合会 副会長

- ・ 再編計画の「地域や地域産業を担う人材の育成」という基本方針から見ると、花北青雲高校の情報工学科は、幅広いIT人材を育成する上でまさにその好例であり、この分野の学びは黒沢尻工業高校の半導体関連学科と同様に今後も重要であると考える。
- ・ 大迫地区からの生徒など、花北青雲高校の情報工学科に進学を希望する花巻市の生徒が一定数いるが、募集停止となると、通学の難しさから工業系の学びの選択肢が失われてしまう可能性が高い。
- ・ 大迫高校で実施されている防災キャンプなどの独自の良い取組を観察し、小規模ながら良い学校であることを改めて感じた。今後も、こうした小規模校が地域と協力して生徒確保に取り組めるよう、県教委の継続的な支援を期待する。

小林 武史 西和賀町立湯田中学校PTA 会長

- ・ 西和賀町自体の中学校卒業生は今後20人前後しかおらず、近い将来一校になる可能性があり、西和賀高校の2学級を維持していくためには、町外および県外からの生徒募集に頼らざるを得ない状況である。
- ・ この状況を乗り越えるため、町の教育委員会、西和賀町、同窓会、PTAが協力して一体となり、町外の学校に西和賀町をPRするなど、自治体、県、地域が連携していくべきである。
- ・ 学級増が部活動の活性化につながっており、例えば、野球部では単独で大会に出られるようになるなど、他の部活動も含めて人数が増え、学校全体がとても盛り上がっている。この状況をなんとか維持していきたい。

佐藤 勝 花巻市教育委員会 教育長

- ・ 地域校については、地理的な要素や子どもたちの多様な学ぶ機会の公平性という観点から、引き続き慎重な対応をお願いしたい。また、今回盛り込まれた中高一貫教育については具体的な検討を進めてほしい。
- ・ 花北青雲高校の情報工学科の募集停止は、これまでの専門高校としての実績評価もないまま、黒沢尻工業高校を拠点校（センター・スクール）とした半導体学科の設置という名目ですり替える、説明責任を果たしていない乱暴な決定であると感じる。
- ・ デジタル人材育成は必要だが、花北青雲高校の情報工学科が担ってきたのはIT系のソフト面の学びが中心であるのに対し、黒沢尻工業高校の半導体関連学科はハード面の印象が強く、学びにギャップがある。
- ・ 花北青雲高校の情報工学科は、地域からの人材ニーズも高く、ビジネス情報科や総合生活科とのリンクによる多様な学習や、野球・バドミントンなどの部活動を含めた「文武にわたる魅力」が高い。学科が一つなくなることで、この魅力が半減される懸念がある。
- ・ 専門学科は私立高校での設置が難しいため、公立高校が担うべき社会的な責任や使命が非常に重

いと考える。合理性という名の拙速な統合に走らず、時間をかけて子どもたちに示し、魅力ある学校づくりを踏まえた上で再編を進めていただくよう、修正案の見直しを強く求める。

船田 浩 北上市教育委員会 教育長

- ・ 修正案の修正箇所については特段の意見はない。
- ・ 黒沢尻工業高校の半導体工学科の新設について、市として非常に大きな期待を寄せている。これまで工業系の学科名に「工学」という言葉はなかったため、この名称に意味があると考えている。
- ・ 北上市は産業集積が進み、半導体関連の人材育成が強く求められている地域である。高校からこのような後押しをいただけることは非常にありがたく、関係団体や県の新しい施設等とも連携しながら学科運営を進めていくことに期待している。

佐々木 一人 遠野市教育委員会 教育長

- ・ 校舎間の移動手段に関する修正案への配慮に感謝する。私立高校の授業料無償化が進む中で、このピンチをチャンスに変えるような魅力的な取組を積極的に行い、公立高校の魅力を促進していくことが大切である。
- ・ 公立高校の魅力の一つである、地元の企業や産業分野からもニーズが高い職業系・専門学科（農業系も含む）の充実を図り、地域の活性化につながるような魅力化を期待する。
- ・ 遠野緑峰高校は、地域企業と連携した商品開発や海外販売など、地域に根差した多様な取組で愛されている。このような専門性が十分發揮できる教育環境の整備と維持を期待する。
- ・ 不登校傾向の生徒や特別な支援を必要とする生徒が、公立高校で学ぶ機会を保障できるよう、生徒へのきめ細やかな支援体制の充実をお願いしたい。実際に遠野緑峰高校では、中学校時代に不登校気味だった生徒が高校を休まず卒業した事例もあり、そういう生徒への配慮は公立高校にしかできないことである。
- ・ 農業系高校の特性として、生き物等の日常的な世話や管理が必要であるため、再編によって学びが制限されたり、施設が使われずに荒廃したりしないよう、職員の常駐等による施設管理と維持を検討してほしい。
- ・ 生徒数の減少は仕方がないこととして、実情に合わせて教員の定数や学級編成を柔軟に対応して変更していくこともあって良いのではないか。ますます少子化が進む中で、「岩手独自のスタイルの高校」があっても良いと考え、今後の再編の中で考慮を期待する。

柿崎 肇 西和賀町教育委員会 教育長

- ・ 今回の修正案について特段意見はない。
- ・ 西和賀高校は、現在、学級増を成し遂げ、生徒たちは意欲をもって進学や就職、部活動などに一生懸命取り組んでいる。西和賀のような地方自治体を支える上で、地域校は不可欠であるため、各地区の地域校を大切に維持してほしい。特に、通学が困難な状況にある生徒も多いため、今後も各地区的地域校を確実に残していただきたい。
- ・ 2学級増となったことにより、3年間で教員が6名程度増える見込みであると聞いているが、初年度の増員は1名に留まっており、学校が新しく変わろうという時期に教員への負荷が大きく、疲弊につながっている。
- ・ 先生方が子どもたちに寄り添える環境や、キャリアアップのための研修時間を確保するためにも、できるだけ早く教員数の確保などの人的な配慮を、段階的ではなく迅速に行っていただくよう期待する。
- ・ 地方創生に大きく貢献する「いわて留学」は、県外からの生徒だけでなく、地元の生徒にとっても多様な生徒と共に学ぶ良い機会となる。
- ・ 地元の学習環境も踏まえ、オール5の生徒から学習に困難を抱える生徒までを受け入れている現

状に対し、県からの支援を期待する。特に、大学進学を目指す生徒への支援は、岩手県の進学率の課題も踏まえ、国家的視点からも重要であり、大きな支援をお願いしたい。

横手 勝美 花巻市校長会（花巻市立花巻中学校長）

- ・ 花北青雲高校の情報工学科は、総合的な専門高校の中の工業系として特別な価値がある。市内の中学校の進路希望調査によると、現段階で約30人の生徒が情報工学科を希望しており、地域のニーズは確実にあるため、柔軟な対応をお願いしたい。
- ・ 大迫高校についても、現在、花巻市内から約7名の生徒が希望しており、中には別室登校の生徒もいる。二次募集や県外募集も含めて、確実なニーズがあることを踏まえた柔軟な判断を期待する。大迫高校では、高校3年生の7名中5名が推薦で大学に合格（明治大学合格者含む）を決めるなど、手厚い支援によって生徒の進路実現を図っており、その取組は素晴らしいと評価する。

堀村 克利 遠野市校長会（遠野市立遠野中学校長）

- ・ 高校の再編計画においては、公共交通機関での通学が困難な地域の生徒の学びの機会を保障するため、柔軟な検討をお願いしたい。
- ・ 計画が公表されるにあたり、中学生などが進路選択に困惑することのないよう、実施時期を含め、慎重で十分な周知をお願いしたい。
- ・ 再編によって使われなくなる校舎や、現在使われていない元高校の校舎について、活用および計画的な維持管理を進めていただきたい。
- ・ 遠野高校と遠野緑峰高校の発展的な統合については、まだ時間があるため、両校と地域の関係者が協議を重ね、地域に根差した学校となるよう進めてほしい。カリキュラムにおいては、地域に根差した農業などの産業との結びつきと共に、半導体関連分野のように海外での学習など最先端の学びも積極的に導入し、それぞれの地域の良さが生かされる環境構築を期待する。

加藤 建一 北上市校長会（北上市立南中学校長）

- ・ 今回の修正案について特段の意見はない。
- ・ 定員割れが続いている現状で、将来的に学級減となり適正な人数になることは、学力向上に資する良い傾向につながるのではないかという感想がある。
- ・ 地域ニーズに応じた半導体工学科などの新しい学科創設は、生徒の選択肢が多くなるという点で良いことである。一方で、生徒が「何をしたいかわからない」状態にならないよう、我々中学校は高校と協力し、新しい学科や学校の良さをしっかり学び、生徒へ正確に伝えられるようキャリア教育や進路指導を充実させていかなければならない。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 花北青雲高校の情報工学科に関する「拙速ではないか」という地域からの強い意見を重く受け止め、皆様の思いを吸い上げた上で、県教委の最終案公表までの過程でしっかりと検討し、結論を出していきたい。
- ・ 公私立の定員比率が公立75：私立25となり、特に中部地区では私立高校が存在するため、私立の魅力に負けないよう、危機感をもって公立高校の魅力化に取り組んでいく。
- ・ 農業などの専門高校については、新規就農支援制度の周知不足といった課題に対し、知事部局の農林水産部とも連携し、第一次産業を担う人材育成を強化していく。
- ・ 遠野緑峰高校の施設の維持管理については、意見をいただいた通り、日常的に常駐できるような職員配置も含めてしっかりと取り組んでいく。
- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒の学びの保障については、杜陵高校の定時制・通信制を金ヶ崎高校に移転させ、中部地区の生徒も通いやすくなるよう、通学バスの検討やICTを活用した環境

充実を図り、支援を継続していく。

- ・ 西和賀高校の学級増に伴う教員配置については、増員の予定をしっかりと履行し、地域校を財政面で支えている花巻市のような市町村には、県教委としてもしっかりと後押しし、支援に取り組んでいく。
- ・ 「いわて留学」については、各市町村の課題に応じた助言・アドバイス、可能な限りの支援を継続していく。
- ・ 支援の窓口がわかりにくいという意見はもっともあり、今後は「受けた人が窓口」という意識で、一般の方からの電話等にも県教委全体で柔軟に対応していく。
- ・ 生徒が早期から進路を考えられるよう、義務教育と連携し、早い段階から高校の情報提供や魅力発信の取組を進めていく。

多田 一彦 遠野市長

- ・ 岩手県が熱心に取り組んでいる「いわて留学」について、遠野高校は地域や学校の努力の結果として優秀な県外生徒から選ばれている。一方で、昨年度は定員の関係で、遠野高校への入学を希望した優秀な県外生徒を不合格にしなければならないという大変悔しい状況に直面した。遠野市としては、今後も定員を超える希望者があった場合、柔軟に対応していく覚悟でいるため、県教委にも同様の対応を強く要望する。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ いわて留学の募集定員は平成30年頃に定められたが、遠野高校の状況変化を把握しており、その見直しを検討すべき時期に来ていると認識している。地元の生徒の進路選択に影響がないことが確実に判断できるのであれば、募集定員の見直しを検討し、柔軟に対応できるよう取り組んでいきたい。

上田 東一 花巻市長

- ・ 花北青雲高校の情報工学科について、改めて再考を願いたい。志願者が一定数（28人～30人程度）いる状況であり、他の工業高校に比べても多いことから、子どもの希望をかなえてほしい。
- ・ 大迫高校の存続判断について、機械的な判断（生徒数21人など）ではなく、地域の状況や進路実績（手厚い支援で明治大学などへの合格実績がある）を見て、慎重な判断をしてほしい。
- ・ 公立高校は私立高校と競争するのではなく、共存共栄の関係を築くべきである。花巻東高校のように志願者が定員を超える状況は、周辺の県立高校の生徒にも良い刺激となっており、私立高校への支援も続けてほしい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 花北青雲高校の情報工学科については、現行の再編計画の前期計画にも学級減が位置付けられていたが、当時、一定数の志願者数があったため、実施を見送った経緯がある。今回の再編プログラムについても、市内の関係中学校が示した一定の志願者数を踏まえながら、今後の状況に応じて慎重に判断し、対応していく。
- ・ 大迫高校については、機械的に生徒数のみで判断するのではなく、地域の状況やこれまでの支援の実績を考慮して対応していく。
- ・ 花巻東高校などの私立高校については、公立高校と共存共栄の関係を築くことが望ましいと考えており、引き続きこの点についてしっかりと取り組んでいきたい。

新渕 伸彦 農事組合法人リアル 代表理事

- ・ 私立高校は授業料が無償化されたとしても、施設管理費や部活動費などで年間65万円以上（部活

動費を含めると 100 万円を超える可能性) の費用がかかるため、保護者にとって相当な負担となっている。公立高校は費用負担が少ないため、親としては子どもに高校までは公立高校で頑張って通ってほしいという思いも含め、公立高校の魅力を高めることを期待する。

- ・ 北海道で定時制高校に勤務していた経験から、高校に行けなかった 60 代や、学びたい 40 代など、幅広い年代の人々が学ぶチャンスとして、定時制・通信制の門戸の広さは非常に大事である。少なくなったからといって安易に縮小するのではなく、県民への周知も含め、大人になって学ぶ場所を維持してほしい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 岩手県内では広域通信制（1 単位約 1 万円）に流れる生徒が多いが、杜陵高校などの公立の通信制は 1 単位 190 円であり、費用面での大きな利点がある。この公立の利点が保護者に十分に伝わっていないため、今後は中学校の保護者や生徒に対し、取組を通じて周知を徹底していく。
- ・ 私立高校の授業料無償化に伴う施設維持管理費などの費用増加は承知しており、国も授業料の便乗値上げ抑制を検討しているようで、しっかり取り組んでいきたい。
- ・ これまで県立高校への国の支援は少なかつたが、今後、高校教育改革実行計画に基づき国から交付金が入る見込みであり、これにより県立高校の学びの環境等の充実が図れるよう取り組んでいきたい。

上田 東一 花巻市長

- ・ 花北青雲高校の情報工学科については、前回の再編計画（前期計画）において、西川課長が言及した通り、志願者数の実態を見て募集停止の実施を見送っていたことについて感謝する。一方で、今回の再編プログラムについては、前回とは別の計画であるため、拙速であるとして、現時点で学級減や学科改編を位置付けることを撤回してほしい。来年度の入学者数を見て判断するのではなく、時期尚早であるため、計画の中で再編プログラムから外すことを明記していただきたい。

佐藤 勝 花巻市教育委員会 教育長

- ・ 課題となっている県南工業高校の再編計画について、まずはそちらの道筋をしっかりと立てていただきたい。その上で、県南工業高校の計画よりも先に花北青雲高校の情報工学科の募集停止を進めるのは順序が逆ではないかという強い懸念を持っている。花北青雲高校は花巻市で唯一の工業が学べる高校であり、情報工学科がなくなると、工業を学びたい生徒に「黒沢尻工業高校に行きなさい」と選択肢を押し付けているような印象を受けるため、乱暴な決定ではないかと感じる。引き続き、再編計画については、丁寧な検討と説明をお願いしたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 多岐にわたる意見を頂戴した。これらの意見、要望は、県教委として重く受け止め、全て持ち帰らせていただく。一つ一つの課題について、県教委内で丁寧に議論を重ね、再編計画の最終案の検討を進めていきたいと考えている。